

令和4年度
第1回岡山市文化芸術推進会議における主な意見

- 1 日 時 令和4年4月19日（火） 13時30分から14時53分まで
- 2 場 所 岡山市役所 議会棟3階 第1会議室
- 3 出席者 委員10名
- 4 傍聴者 報道 1名、傍聴者 1名
- 5 議 題 岡山市文化芸術推進計画骨子案等について

6 主な意見

- ・なぜ今文化芸術なのか、現状と課題を踏まえたうえでの計画内容、新機軸ともいべき新たな形の計画の糸口、記述のスタンス、などを議論できればと思う。
- ・内容が盛りだくさんであるため、メリハリをつけて本当に重点的に取り組むもの、一時的か継続的か、というところをポイントに進めてはどうか。
- ・現在の感染症蔓延下で、音楽、舞台系を中心に文化関係の活動が非常に細く弱くなってきている状況を痛切に感じている。計画体系への落とし込みが困難でも、この状況に対しての、持続可能、支援という視点、観点を可能であれば加えてほしい。
- ・7つのテーマの最初「みせる」という言葉に少し違和感がある。「観せる」「魅せる」様々な意味があるとのことだが、文化施設とかいろいろなものが市民にひらかれていき、つながっていく、そんな姿勢が、わかりやすい言葉で盛り込まれたら素敵だと思う。情報がきちんとオープンにならないと信頼関係が損なわれてしまう。
- ・家庭の環境差が深刻。文化芸術を鑑賞する機会を全ての子どもたちに平等に与えてあげたい。そのためには学校教育がとても大切になるので、学校関係者とも積極的に協力して推進していただきたい。
- ・岡山市の小中学校で、文化芸術に触れる「時間」でなく「日」を設けてはどうか。岡山市の文化施設の特長を活用した文化芸術活動を体験するメニューを用意し、あとはある程度学校に任せる。学校の外へ出て文化芸術活動を体験する機会を提供する。入館料は無料でもいい、というか無料が原則である。子どもたちに引き継いでいかないと。
- ・桃太郎大通りには桃太郎に関する像がたくさんある。桃太郎大通り、表町商店街、

芸術創造劇場を活用して、歩いてゆっくり楽しむ企画など、岡山市全体で文化芸術に触れる機会が増えてくるといい。

- ・子どもころ親から「いいものを見ろ」「本物に触れろ」と言われ、そのときはわからなかったが、スポーツの世界では低年齢化が著しく、芸術の世界でも同様に子どもころから本物に触れていると「これは」という人が出てくるのでは。そういうものに触れる機会をどんどん作っていくことが、将来の岡山市をより豊かにすると思う。
- ・子どもたちが一番と思っているので、ほかの委員も計画案の内容も同様の意見でありがたい。未就学児からとあるが、母親たちも含めた新生児からずっと、が本当に市民一人ひとりだと思っている。また、「社会包摂」ということが言われているが、してあげる、施すという感じがぬぐえないとまだまだだなとも思う。すべての人が、この条例や計画があることで、豊かに生きていくことができるようになればいい。
- ・岡山市は、子どもたちをベースに、育み、つなぐという形で伝承するSDGsを推進、強化しており、こうした取り組みをしている開けた魅力的な市である、ということについて、是非、市外、県外、世界への情報発信にも力を入れていただきたい。
- ・子どもを受益者として、様々な形で文化芸術活動をしていこうという考え方に賛成である。それらの取組が最終的に岡山の魅力につながっていく。また、働いている人々の間でもアート鑑賞が流行っており、年配向けの一般教養講座があるなど、全世代にアートに対する関心がある。その中で、受益者負担が原則かという議論に対しては、必ずしも受益者負担にする必要はないと考える。ただし、誰かが負担する必要がある。欧米の美術館・博物館の多くは入館料が無料だが、周りの方々がその館の存在意義を認め、社会全体で支えている。そのためには情報発信が重要。単なる広告ではなく、どんな目的で、どんなことに取り組み、どんな成果があったのか、きちんと皆さんに伝え、理解してもらい、サポーターを増やしていく、そのような仕組みをつくっていくことが必要ではないか。ビジネスの世界でもそうであるし、スポーツの世界で、例えばファジアーノ岡山の方々が毎日毎日企業をまわってお金を集めているのと同様。支援者を増やし活動が維持されることで、岡山の魅力アップに繋がり交流人口を増やしていくことができる。
- ・推進体制のなかの行政機関について、とかく縦割りになりがちなので、観光分野など市役所内部でも横断的で有機的な連携をお願いしたい。